

## 山田町民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 4 月 8 日掲載記事)

震災後、山田町には仮設住宅が 46 か所・1,940 戸建設されました。散り散りになった地域コミュニティの再構築のため、これまで民児協独自に取り組んできたふれあいサロン「お座敷広場」を「お座敷サロン」と改称し、各地で再開することとしました。船越地区民児協では、震災前に地区内 4 か所で「お座敷広場」を開催していましたが、震災後は従来の開催地区と合わせて 6 か所で開催しました。

「お座敷広場」は、平成 12 年の介護保険制度創設にあわせ、高齢者の生きがいをづくりや健康づくりを目的に開始したもので、これまで多くの試行錯誤を繰り返しながらも、引きこもりがちな高齢者（とくに男性）にも少しずつ浸透してきました。

以前の「お座敷広場」では、民生委員・児童委員が参加者に手作り昼食をふるまい、好評を得ていました。しかし、震災によりこれまで会場としていた地区の集会施設が流失したため、手作り昼食の提供ができず、主に仮設住宅の集会場でお茶とお菓子を提供する「お座敷サロン」として再開しました。仮設住宅の小さな台所では作れないお汁粉の提供や、折り紙でのリース作りやマジックの披露、委員の合唱など趣向を凝らした内容に、参加者も笑顔で帰路につきます。地区によっては、子どもから高齢者まで幅広く参加いただいています。これまで、自分は元気だからと参加されなかった方にも震災後にあらためて声かけをして参加いただいています。そうした方がたからも、「参加して楽しかった」「もっと早く参加していればよかった」という感想をいただいています。

現在では、以前の親しみやすいネーミングに、との住民の要望を受け、サロン名を「お座敷広場」に戻して活動を続けています。仮設住宅には、さまざまな地域にいた方が隣近所に入居しています。新たな地域コミュニティ形成のため、今後も「お座敷広場」の取り組みをすすめていきたいと考えています。



イスに座ってできる健康体操  
(2011 年 7 月 24 日／大浦地区)



折り紙に挑戦  
(2011 年 9 月 14 日／仮設住宅談話室)